

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100273		
法人名	社会福祉法人 扇寿会		
事業所名	グループホーム寿		
所在地	佐賀県佐賀市嘉瀬町大字扇町2337-2		
自己評価作成日	令和 4 年 4 月 30 日	評価結果市町村受理日	令和4年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和 4 年 6 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム西側は、季節の樹木が植えてあり、日光浴や散歩を楽しむなど、入所者が四季の移ろいを楽しむ事ができる。明るい見通しの良い、開放的な共用空間から続くテラスは、日向ぼっこや食事をする等、入居者にとって気持ちの良い五感刺激の場になっている。また、一人一人の嗜好に合った食べ物、形態(普通食、刻み食、ミキサー食)等に気を配り、対応しています。地域交流室は、地域の方の利用に門戸を開けており、過去には地域の民生委員が主催する集まりや地域包括センターの会議にも利用して頂きました。なお、協力病院が歩いて数分の場所にあり、24時間体制で医療連携をとってます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの敷地の西側には樹木が植えられ、遊歩道を歩いたり、窓からも季節を感じることが出来る作りになっている。ホーム内でも季節を感じることが出来るよう、季節の飾り付けなどにも力をいれている。居室は家族の写真や仏壇などの持ち込みもあり、馴染みのものに囲まれて安心して過ごせる環境が整っている。入居者の方々が楽しく過ごせるようレクリエーションなどにも工夫を凝らしており、入居者は生きいきとした表情で過ごされている。近隣にある協力医療機関への受診は日々行われており、リハビリを通し筋力や可動域の維持にも繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に基づき、日々の勤務の中で、申し送り時等、理念の共有に努めている。理念はスタッフルーム横の誰もが見える所に掲げており、日々使用する「介護記録」の表紙にも貼り、少しでも理念に近づけるよう取り組んでいる。	事業所の企業理念を基に、申し送りやスタッフ会議の中でも意識付けを行い、互いの意志を尊重し実践につなげており、管理者、職員間共に反省と対応、対策を随時行っており、理念に近づけるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策により参加等、自粛していました。	近所の方からの差し入れなどもあり、日頃から地域住民との関わりは継続して行っている。配布物なども郵送ではなく手渡しで届けるなど、コロナ禍において出来る限りの工夫を行い、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策により参加等、自粛していました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染対策により参加等、自粛していましたが1回実施することができました。現状報告や活動報告についての質問、意見や助言、評価の場になりました。また、議事録を作成しスタッフ間に共用しサービスの向上につとめている。	今年度は、年間6回の運営推進会議のうち1回を対面で実施され、他は書面開催を行っている。家族にも聞き取りを行われ、意見を反映できる仕組みを作られている。議事録は職員間で情報共有し、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議実施時は【おたっしゃ昭栄】から、職員が参加して頂き情報提供の機会になっている。また、週一度の運営会議で連携して情報提供に務めていた。	市担当者には必要に応じ連絡を行っている。地域包括支援センターへは日常的に相談を行っており、関係性を継続しながら、協力関係を築けるように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に、内部研修にて身体拘束について、勉強会を実施し、問題の共有を図っている。日中の玄関は手動で開閉できるようにしており、入居者を含め人の出入りが明確にするように努めました。また、職員の言動による行動制限も互いに意識し声掛けを実施している。	内部研修やスタッフ会議の中で身体拘束について、日頃の場面をとらえ研修を行い意識を高める努力をしている。現在、入居者の安全上配慮が必要な状況にあることから、玄関は日中遅番が出勤するまで施錠されており、遅番出勤後の午前10時に開錠されている。	施錠が継続的にならないよう、開錠できる時間を増やしていく取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に、内部研修にて高齢者虐待防止について勉強会を実施し問題の共有化を図り、利用者の尊厳、及び人権を遵守しケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在は1名の利用者に成年後見人がおられ、面会時に制度の理解と共用認識の把握を行い、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が家族に契約書、重要事項説明書をわかりやすく説明し、家族の思いや不安を聞き入れ契約するようにしている。また契約後も家族に希望や質問があれば、すぐに相談が出来るように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の家族への情報のお便り等で機会を設けて実践につなげている。苦情箱の設置をしており、苦情や意見等は家族との会話の中や受診時等、個別で意見の言いやすい機会を作っている。	毎月家族へホームからのお便りを送付している。お便りには入居者一人ひとりの状況を個別に記載し情報提供を行っている。また、機会を設け家族への連絡を行い、行事等へ参加して頂いた際に家族から意見等を伺う取り組みをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にスタッフ会議を開催し、スタッフ間の連携、情報の共有化に努めることができた。	業務に関する連携や情報共有については出来ているものの、スタッフ会議等全体で行う会議などで意見が出にくい状況となっている。そのため個別で意見を聞き取るよう取り組みをされている。	個別で意見を聴きつつも、会議でも、職員の自発的な言葉が増えるような取り組みを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、代表者に日頃の職員の様子等を報告し、有給休暇、その他福利厚生を整え、職員の意欲向上、ストレス軽減に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が研修出来る様、開催される講習会を連絡簿に告知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	制度的に、新しい事や変更されたことを実施する際は、他施設に確認を行い、連携して、交流を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談し、今後の生活の不安や問題解決に努め不安の軽減を図っている。その後も定期定期に各利用者との面談を行い不安の軽減、安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や質問ができやすいように、聞き取り中にも段階をふまえて問題点に対しての対応案を納得いくまで話し合う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階では、環境の変化に対する入居者の不安を軽減するため、関りを多く持つ。必要としている支援を見出し傾聴しながら問題点を解決している。また、家族の希望も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	他者を尊重し関わるように心掛け、共同生活上にて出来ること、出来ないことを見出し支援している。また、嫌味がない声掛けを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族連絡し状況報告を行っている。本人の事で分からないことは、ご家族に確認しながら問題解決している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染対策にてご家族以外の関係者には自粛の御協力していました。	コロナ禍にて面会等制限中であるが、電話の取次ぎを行う等、関係性が途切れないよう支援している。また本人の意向に沿い、近所の田んぼや家の近くの馴染みの場所へ出向く等の支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性や関係を把握し座席の調整をしている。作業や会話を通して関係を深められるよう支援している。皆様が何かしらの力が発揮できる様努め、職員が談話の中で入居者同士が通じる話題を提供したりして孤立する事画が無いようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移り住む方の状況、習慣、好みや、これまでのケアの工夫などの情報を詳しく伝え、必要や求めに応じて、相談や支援をするようにしている。亡くなられた後にも御家族から面会や古新聞の寄付等がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人・家族からの聞き取りを行っている。入居後は、日常会話や面会時の家族との会話を大事にし、入居者の意向把握に努めている。	入浴中や居室、リビング等で、1対1の時間も作り、ゆっくり話を聞けるようにしている。意向の把握が難しい方へも、声掛けへの反応や、動作や仕草等に注意を払い、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人・家族から、生活や趣味・サービス利用までの聞き取りを行い、入居者像の把握に努めている。入居後も御家族との関わりで新しく知る事もあり、入居者増を		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員は勤務以外の利用者の言動、行動を業務日報、サービス提供記録を一読して業務に従事する事を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、本人を取り巻く御家族、医療機関、地域と連携して本人の希望に添える様に介護計画を作成している。また、職員同士で統一したケアを実践している。	家族へは電話や手紙にて聞き取りを実施し、介護計画に意向を反映している。介護計画は職員で検討し、介護計画を作成している。また、随時見直しを行い、現状に即したものとなっている。しかし、家族との話し合いが十分でない部分が見られる。	丁寧な対応をされているが、家族とより介護計画についての話し合いの形が作られるよう、介護計画の説明の工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は入社後、必ず個別記録を確認し、また申し送り時、口頭、業務日誌により情報を共有して、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	田中病院受診時の付き添いは職員が行い、入院準備、入院時の洗濯支援も行い、状況確認が出来るようにしている。また、精神症状があり、不穏になられた入居者は、ドライブや近隣の散歩で気持ちの切り替えが出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前までは、運営推進会議には、民生委員、おたっしや本舗も参加頂き、交流を行っていた。コロナ禍の現状では、以前のような交流は難しく、コロナ終息後は地域との交流を再開可能になる事を望んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に関連医療機関の説明行い、関連機関への受診は職員が付き添いしている。必要に応じて家族の同行により納得が得られる関係を重んじている。受診される際は、必要に応じて	入居時に医療機関の説明を行っている。隣接する協力機関への付き添いは職員にて行っている。家族と話し合いのもと、外部受診の際には移送支援などを利用し継続した受診が出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護・夜間や休日等も何かあれば連絡し、助言・指示を頂いている。入居者が適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院準備や洗濯物支援を行い、病院や家族それぞれに連絡を取り、退院の時期等について相談し連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では、重度化した場合における対応の方針を作成しており、入居時の説明と同意を得ている。入居者の状態により、本人や家族・主治医等の関係者と連携しながら関わっている。	現在ホームにて対応しているが、医療や介護が重度化した場合には、同法人の特別養護老人ホームなどへの提案を行っている。主治医からの意見を聴取しながら、医療機関、家族等と話し合いを行い方針を決定するなどチームで支援が行えるよう取り組みを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の整備をし、実践力を身に付ける為の自主訓練も含み、定期的な研修の機会に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定通報・消火訓練を行っている。飲料水・食料の備蓄と必要物品を揃えている。	災害の場合には隣接する協力医療機関への非難を想定されている。コロナ禍でもあり、講習会方式で年2回実施されている。しかし、地域との協力体制の構築はこれからである。	近年、様々な災害の危険も高まっているため、実施訓練等を通して地域の方々と災害対策や協力体制について、理解や協力が深まる取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生活歴や性格など詳しく知る事で、敬意を持った対応につなげている。自室の物の取り扱いは本人の承諾を基に行っており、個人の記録簿等は事務所で保管し、個人情報の管理に努めている。	個人の排泄リズムを把握し、一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した声掛けを行っている。また、外部への勉強会への参加や、内部でも研修等を行い職員の質の向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉掛け、傾聴により本人等の要望等を知る機会を作っている。ひとりひとりの理解力や判断力に合わせて質問の仕方を変え、こちらで全て決めてしまわないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルに合わせて、入居者のペースを守り、意志の尊重をしつつ気持ちの把握に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等の衣類を自己決定できるよう支援している。ネイルケア等おしゃれや身だしなみの意識を失わない様心がけ、美容室は派遣美容か、馴染みの美容室を利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を入居者と一緒にするのは難しいが、盛り付けや片付けの部分では出来るだけして頂くようにしている。嫌いな物は代替えで提供している。	個人の能力に応じ、下膳や食器拭きなど手伝って頂いている。入居者の希望や嗜好を取り入れながらおやつ作り等を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスのとれた食事と水分補給は頻繁に行っており、体調に応じた食事量は、要望に沿った習慣、		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、義歯の清掃の支援を毎日行っている。出来る限りは、ひとりひとり自力でやってもらい、体調に応じて介助者が支援する。スタッフの中に、元、歯科のスタッフとして働いていた方もおり、詳しい分充実している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は基本トイレで行う事を心掛けている。出来るだけ残存機能を大切に、立位が可能な限りトイレでの介助を支援し続けたい。介護職員は入居者個々の排泄パターンを把握し、言葉掛けを行っている。	個人の排泄リズムを把握し、個別に配慮ある声かけを実施され、残存機能を活かして自室のトイレへの誘導や、ホーム中央のトイレを使い分けている。また、職員研修の一環として排泄の実体験を通して、おむつを使用する方の気持ち等の理解に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の記録を確認し、便秘予防及びスムーズな排便に対する対策をしている。飲水が少ない入居者は嗜好品を取り入れ、歩行練習等の運動の働きかけに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則、曜日を決めて入浴日を決めている。が、要望には随時応じている。拒否される場合は無理をせず、時間帯や日をずらす等対応している。お湯の温度も好みに合わせて調節している。	週に3回の予定が組まれている。拒否がある場合には時間や人を替え対応しつつ無理強いないことに対応している。浴室も温度管理されており、快適に入浴できるよう配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	要望があった場合や状态的に休息が必要な方には、声掛けにより自室にて休息をとって頂いている。基本的に自由にされている。夜間、眠れない方にはホールで過ごして頂き、お話をする等し、安心して休んで頂けるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員は各入居者の服薬の在り方を把握しているため、処方箋の内容を確認しながら、副作用についても医療機関に状態報告し連携を図っている。また、薬の誤薬を防ぐ為、薬をセットする際や服薬時に必ず二人で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、食後の片付け等ADLに応じて役割を持って頂き、お礼を言う事で張り合いや喜びのある日々を過ごして頂けるよう支援している。また、レクリエーションに参加して頂き、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通院リハビリや行事、外出レクリエーションの支援は主に介護職員で、その他の場合は、御家族の協力を得ている。家族支援の困難な方に限り、スタッフで支援を心掛けている。	本人の意向に沿い、ドライブや通院、敷地内の散歩などを実施している。また、家族への協力を促しながら外出支援、困難な場合や家族からの依頼があればホームでの外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問のパン屋さんや、スーパーへのお買い物の際、ご自分で品物を選び、買い物を楽しんで頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、家族の了解の中、自由にさせていただいている。必要な部分を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良く、適切な温度環境の設定に努め、室内には季節の花や、その月のイベントにまつわる「お雛様」や「兜」等を飾るか、季節の風物詩を模写した貼り絵等を、入居者と作り、展示している。四季をできるだけ感じて頂けるように工夫している。	室内は温度、湿度、換気、空気循環の管理、加湿器なども設置されており、心地よい環境が整備されている。またホーム内には季節の装飾等が飾られ、季節を感じられるよう雰囲気作りにも力を入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同志の交流に配慮している。また、自室で一人の時間を楽しんだり、好きな場所にて自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ湯呑や食器、仏壇、写真などで穏やかに過ごせるよう配慮している。居室は入居者の状況、好みに合わせて和室、洋室どちらにも対応できるようにしている。	馴染みの物などの持ち込みは可能で、仏壇等も相談があれば持ち込まれている。居室には家族写真なども飾られており、温かみがあり、本人が心地よく過ごせる環境作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食席には私物のクッションがあって迷わずにすみ、部屋ネームは視線にある、廊下には手すりがあり、段差のない建物内部になっている。歩行の方はもちろん、歩行器の方でも安心して歩行が出来るようにしている。		